



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第45期第1号

2025年5月23日
発行者:小泉基



式文礼拝の意義

小泉 基

ルーテル教会の全国総会で新しい式文の試用版が採択されたのは、2018年のことでした。北海道特別教区では、さっそく当時の4人の牧師が集い、4種類作成された式文の曲集について、それぞれ全員で歌ってみる検討会を行いました。もし個々の教会が別々の曲集を採用してしまうと、講壇交換や教区全体の礼拝を行うときなどに困難が生じてしまうため、教区として最初に採用する曲集を選択するためです。

その結果、2018年の全国総会でも用いられたハートと呼ばれる曲集は、華やかではあるもののちょっと合唱曲みたいで、毎週歌うのは疲れそう、という意見があったり、旧式文にそったメロディーのもの(ダイヤ)は、かえて新しくなった日本語にマッチしていない、といった評価もなされました。そんななか、現在用いられているスピードが、比較的落ちついていて歌いやすいという評価で、4人の牧師の一致を見たのです。以来、コロナ禍をはさんで道内の式文を歌唱する教会のすべてがスピードの曲集を導入するところとなり、すべての教会が新しい式文で礼拝するようになりました。これによって、北海道特別教区は、教区全体が新しい式文に切り替えた、全国で最初の教区となりました。

プロテスタント教各派の中でも、式文を用いた礼拝は、ルーテル教会の大きな特徴となっています。ルターは、礼拝に会衆讃美歌を導入したり、

礼拝で使われる言葉を自国語に変更したり、なにより礼拝を神さまにお捧げするものではなく、神さまからの恵みとして受け取るもの、と位置づけなおすなどの大きな改革を行いました。それでも、式文を用いる礼拝の形式自体を大きく変更することはなかったのです。それで、世界中どこに行っても、主日にルーテル教会を訪ねていけば、いつもわたしたちが守っている礼拝とほぼ同じ、落ちついた式文礼拝に参加することが出来るのです。ギターやワーシップソングを用いた現代的な礼拝にも心を動かす魅力がありますが、ルーテル教会では、毎週同じ式文を継続的に用い、秩序だった礼拝を続けていくことによって、会衆の信仰が成長し、深められていくことを大切にしているのだといわれます。ですから、メロディーももちろん大切ではあるのですが、コトバが持つ意味がさらに大切にされています。今年の北海道特別教区では、この式文を用いた礼拝の意義について、ともに学ぶ計画を立てています。ともに礼拝への理解を深め、礼拝に養われてまいりましょう。



各教会の近況報告

【札幌教会】

[教会学校] 3月30日の教会学校には、とってもたくさん子どもたちが集まりました。これまでながく教会学校のためにご奉仕下さった竹原先生が、めばえ幼稚園の園長退任に伴って、教会学校の先生もいったん退かれることになるためです。そこで、教会学校の礼拝の後、スタッフが準備したサプライズの感謝会が行われたのでした。めばえの卒園生の保護者さんたちからも、たくさんの感謝が竹原先生に伝えられました。

[めばえ幼稚園] 翌週の4月6日の札幌礼拝堂の主日礼拝では、めばえ幼稚園の新園長と新事務長の就任式が行われました。14年間、あたたかくめばえ幼稚園をご指導下さった竹原前園長に代わり、今年度から副園長だった相原妙子さんが園長となって新しい体制がスタートしました。あらたに事務長として園をお支え下さることになった林信男さんとあわせて、祈りをもって新しい出発に祝福をお祈りしました。



[イースター] 4月19・20日が今年のイースターの礼拝でした。北礼拝堂では、今回も持ち寄りによる愛餐会が行われました。司会を担当したのは、田中真さんと、昨年洗礼を受けられた野村陽治さんのおふたり。いつも

阪神タイガースの応援団として活躍しておられる野村さんのトランペットの教会初披露(井上志乃さん・松山敏さんとのアンサンブル)や、参加者全員のひとこと発表もあるなど、にぎやかな食卓となりました。

札幌礼拝堂のイースターは、金曜日の聖金曜日受苦日礼拝からはじまりました。イースターの当日は、まず教会学校のイースター礼拝からです。礼拝でイエスさまの復活についてのお話を聞いた後、お祝い会では、先生方がミニーマウス姿で登場し、みんなでミッキーマウスマーチを踊るなど、楽しいひとときを過ごしました。続いて大人のイースター礼拝が行われ、その後スオミホールに移動して、愛餐のひとときを持ちました。以前のような賑やかさはないものの、しっとりとした食卓で、手作りの醤油おこわやポテトサラダ、ケーキなどを美味しくいただきました。今年の祝会では、新札幌教会の最初の牧師であった北尾一郎先生原案の絵本『おいしいね』の、山下由美さんによる手作り紙芝居も披露され、戦争時代の厳しさと、平和の大切さを覚える愛餐会になりました。

新札幌礼拝堂では、久しぶりに教会でちらし寿司を作り、皆でわけあって食べました。以前のような持ち寄りは難しくなりましたが、食材の一つひとつを持ち寄って混ぜ合わせるスタイルは、主の御許に集められ居る私たちに似ているなあと感じました。



[平和を学ぶ会]札幌教会では、毎月第4水曜日の13:30から、北礼拝堂を会場に平和を学ぶ会を行っています。4月は戦争責任に関する政府談話について学びました。1965年の日韓条約、1972年の日中共同宣言、2002年の日朝平壤宣言の他、歴史教科書談話やいわゆる「慰安婦」談話、1995年村山談話、2005年小泉談話、2015年安倍談話を概観し、わたしたちの歴史に対する責任についてわかちあいました。



札幌北礼拝堂

[母の日ファミリー礼拝]5月11.12日は、北礼拝堂と札幌教会で、母の日ファミリー礼拝を行いました。特に札幌教会では、教会学校と合同の「大人と子どもがともに守る礼拝」として、たくさんの教会学校の保護者さんたちもご参加下さり、とても賑やかな礼拝になりました。インドとパキスタンとの軍事緊張が高まる中、非暴力を貫いたガンジーさんの生き方や、またオオカミとブタの対立と和解を描いた絵本などから、平和について考えさせられる礼拝となりました。

札幌礼拝堂



(小泉基・岡田薫)



新札幌礼拝堂

【恵み野教会】

今年の北海道での四旬節は雪が残る冬のうちに始まり、だんだんと寒さが和らいでいくのを感じながらイースターに向かっていくという壮麗な期節でした。昨年の聖金曜日は牧師の引っ越しでばたばたしているなかで、礼拝が守られたと聞いていましたが、今年は深い沈黙のうちにイエス様の十字架を覚える礼拝が守られました。ある方が、聖金曜日の出来事があったからこそ、イースターをより大きな喜びとして迎えることができたと言葉の告白をして下さいました。

たり、牧師が変わってからの一年間をスライドショーで振り返りながら、豊かな時を過ごしました。

またその翌週の4月27日には、恒例のお花見会が催されました。恵み野周辺ではまだ寒さが残っており、桜は開花前でしたが、楽しい交わりの中で春のような陽気な時間を過ごすことができました。

(河田礼生)

翌日の復活主日には多くの方が教会に集まり、共に新しい命に与かる喜びを分かち合いました。祝会は教会員みんなで分担して作った、美味しいちらし寿司をいただきました。とても好評で、今後の恵み野教会での祝会の一つの定番になっていくだろうと予感しています。他にもハーモニカの演奏を聴い



【函館教会】

3月23日、礼拝の中で卒業感謝式が行われました。函館教会で、教会生活を過ごされた遺愛女子高校の3年生を、新たな生活へと送り出すための式です。教会員のみんなで手を掲げて、これからの日々が恵みに満ちたものになるようにと祝福しました。なお、全国総会で東京にいった折に役員の方も交えて、そのうちのお一人と食事をする機会が与えられましたが、大学生らしい面持ちを早速感じさせられました。通える教会も探してくれているようです。

4月20日のイースターには、普段はなかなか来られない方も礼拝に集まり、豊かな礼拝を与えられました。祝会では、函館のキングベーカリーのパンを片手に、イースタークイズを皆で楽しんだり、リクエストの賛美歌を歌うなどして過ごしました。教会の方が用意してくださったクイズはマニアックで牧師のわたしも苦戦するような問題も多かったです。また翌週には、近くの五稜郭公園で

散歩をして、桜を楽しみました。立地に恵まれた教会であることを改めて感じます。

最近では、教会で活躍するゴスペルサークルMSCが5月末のライブに向けて、礼拝堂で力強い声を響かせています。日曜日に練習する時には、メッセージやお祈りをさせていただいたり、ライブでも牧師のお話をする機会を設けていただきとても良い関係を築いています。教会としてもMSCの活動を通して、より多くの人に賛美の声が届き、救いの喜びが広がることを祈り、応援しています。

(河田礼生)



【帯広教会】

イースターが遅い年は春も遅いと聞きますが、今年はまさにその言葉通りのようでした。一度気温が高くなったものの、3月末には名残り雪。戦慄が走りましたが、2月とは違ってすぐに融けてくれたのでほっとしました。

復活祭に向けての準備では、「コロナ過でずっと控えていた教会での調理を今回はお楽しみを兼ねてやってみよう」ということになりました。イースターエッグの他に、手作りクッキーを祝会で配ろうという提案に皆さんノリノリ。平日のクッキー作りにはじまり当日のちらし寿司作りは、担当者のてきぱきした指示により楽しく行えました。牧師は浦幌集会と札幌への移動があったため、ゆっくり、のんびりとはいきませんでした。美味しい、

楽しい昼食で主の復活を祝うことができました。この間、体調を崩されたり、入院や加療される方もおられましたが、共に2025年の復活祭を迎え祝えたことを参加者みんなで神に感謝しました。(岡田薫)



教勢動向(2025年2月-2025年5月20日)

札幌教会
恵み野教会

召天:村田隆三(4月8日)
召天:岩本聡子(5月12日)